

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いわゆるノーマライゼーションを念頭に、「地域の皆様と協力し合い、地域生活を通してご入居者の健やかなる、心豊かな暮らしを育て参ります」を施設理念としている。	○ 施設理念は、「運営の基本理念」「運営の方針」に具体化している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念は、適所に掲示しまた、全体会議等では理念の実践に向けたケース検討に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所される際、玄関等の目立つ場所に理念等を掲示しており、地域性を重視した運営を行う旨、周知している。	○ 施設理念は、「運営の基本理念」「運営の方針」に具体化し重要事項説明書に記載し契説明している。また運営推進会議において説明している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	昨年、11月の施設開所に際しては町内を主に、ご挨拶させて頂き、内覧会にも来ていただく。回覧板、地域推進会議等を機会に日常的なつきあいができるように努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にの一員として、清掃活動、ごみ当番等、地元の人々との交流に努めている。	○ 防災訓練には、町内や民生委員に立ち会いを頂いた。清掃活動には、入居者も参加している。

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	音楽療法の研修の場として利用してもらっている。町内には、要介護者は少ないが、第一に、介護保険施設としての「グループホーム」を周知できるよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	適切なパンフレットを読み、自己評価・外部評価の意義をその理解に努めている。	○	施設年間計画の作成等、自己評価の成果は現れている。 外部評価は本評価が初回にて、今後にて評価を参考に諸所の改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内・民生委員・市・包括支援センター等、第三者の提案を頂ける場としている。また、入居者・家族を含めて活発な意見交換ができるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター担当者と連携し、研修情報の提供を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	福祉課へは、事故報告・感染症報告を適時行い、担当者より必要な対応策等の指示を受けている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護事業マニュアルや介護支援専門員研修等を通して制度について学んでいる。	○	開設来、制度利用例なし。 施設年間計画にて研修を予定している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について申送りにて資料を提供し、法制度の周知を行っている。	○	施設年間計画にて研修を予定している。

4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用、入居契約に際しては、分かり易い言葉で説明し、重要事項説明を行っている。入居中もできる限り、家族と情報交換を行い、やむを得ず退所となる時であっても不安なく、移行できるように支援を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな事も発言できる雰囲気づくりに努めている。 職員は申し送りにて、入居者の希望等の情報を共有し、できることから統一して支援を行っている。	○	家族等、面会時は居室にてプライベートな対話をして頂いている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、預かり金の決算報告を家族に発送しています。生活や健康に関する情報の交換・共有を受診・面会にあわせ適時、行っている。	○	職員の入退職は日頃、面会時にて対応している。退職者は、聴かれた場合のみご報告を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には苦情受付窓口等を掲示し、また、提案箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「申送りノート」・直接相談にて、常に職員の意見等を聞く機会を設けている。毎月の活発な全体会議も行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の緊急時には、人間的な対応を含むマニュアルを整備している。家族状況に合わせ、通院支援等を行っている。	○	利用者の状況等によっては、人間的なリスクを排除するべく時間帯による職員配置の調整に努めている。

18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が必要な際も、時期調整をし、入居者・職員共に、不安を最小限に留めるよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画はないが、管理者の報告・相談に応じて、法人内外の研修機会を確保している。 施設年間計画に沿った法人内研修も行っている。	○	経験・資格レベルに応じて、いわゆる認知症介護の実践者研修・介護支援専門員実務者研修・民間セミナーへの研修を予定している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の報告・相談に応じて、近郊のグループホームと入居者行事を通じた交流機会を持っている。 施設内覧会には積極的に訪問できるよう配慮している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者の報告・相談に応じて、休憩室の確保・施設安全対策等、必要な取り組みを行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者の報告・相談に応じて、より高い精神性に繋げるためのスキル向上にへの支援に努めている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の主訴を聞く機会は、入居し生活をはじめられてからとなるケースが多いのが現状。	○	生活環境の変化にも、安心感を持てるよう特に、事前の生活暦の把握に努め信頼感ある支援に繋げている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学・入居相談に際して適宜、家族の主訴を聞き受けとめる大切な機会としている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、適切と思われる他の社会資源等の利用に関わる情報提供にも努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問を通して、生活暦、生活環境等の把握に努め、なじみの生活用品等を持ち込んでもらう等の相談支援を行っている。隣どうまく話ができそうな、ホール座席（指定）の位置決定にも配慮している。	○	ケースによるが、基本的に生活に慣れるまでは、家族の面会等の支援を積極的にお願いしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分らしい暮らしへの支援を基本に、個々の生活暦を尊重し、あたりまえの地域生活をケアする中で、支え合える関係を築くよう努めている。		

岐阜県 グループホーム ホープ

28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要時の家族連絡・面会時の生活状況説明等、を通して情報を得、できるだけ家族と一緒に考え、家族との対話を念頭に支援を行っている。	○	お願いできる家族には、定期受診・理美容等の入居者の外出同伴をしてもらっている。 また、入居時には心の支えとなってもらえるよう、面会頻度等においても協力してもらっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	信頼関係を築きながら家族暦の理解に努め、関わるすべての人が、自分らしく、心豊かな生活を送れるよう、念頭に置いた支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・我家や友人・趣味等の馴染みの関係を継続できるよう務めている。	○	家庭への通信や、作品を送る等、手紙の支援を行っている。 ボランティアさんとの馴染みの趣味を通じた交流の機会も持っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	園芸・掃除・配膳等の役割やレクリエーションを通じて、入居者同士が関わりあい、支え合えるよう努めている。	○	座席配置等、環境面の調整工夫も状況に応じて入居者ともお話ししながら、適時に行っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な際は、移行先の施設や居宅の介護支援専門員・家族等と連絡を取り合い移行支援を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの対話より、心身状態の把握に努めながら、随時、暮らしの中で提案をして、生活域を広げられるよう支援を行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日ごろの入居者・家族との対話より、これまでの暮らしの詳しい様子の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の自分らしい生活パターン、心身の健康の様子、残されている能力を把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の希望等や既往症を反映したケアプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適時、入居者・家族・医療の意見を反映し、個人ケアノートにより、現状に即したケアの柔軟な方向性を職員が共有しながら必要な支援を行っている。	

38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアノート、個別医療記録を通して入居者の情報等を共有し、個別支援に生きている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、看護師による健康チェック、健康相談や必要に応じ通院支援を行っている。	○	その日の希望による、外出のニーズにも応えられるよう努力している。 外出については、入居者の希望以外に情報提供や提案を行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア・消防・自治会・地域のグループホームとも協働して支援を行っている。	○	民生委員：苦情窓口の第三者委員 ボランティア：音楽療法・演奏会・敬老会等 消防：防災訓練の実施 自治会：入居者、掃活動参加 地域のグループホーム：交流会・行事に参加
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居相談や退所に際しては、担当居宅ケアマネジャーや事業者・移行施設との調整に勤めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会議において入居者処遇等について協働している。		



岐阜県 グループホーム ホープ

43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時にも負担無く対応できるよう、できれば直近の診療所を利用してもらっている。必要時には主治医の指示を受け、適切な対応や専門医療機関の受診を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療の必要に際しては、認知症の専門医に通院し、医師と関係を築きながら、職員も相談し適切な認知症介護に努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、看護師による健康相談や健康管理を行っている。ケースに応じ、通院支援も行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族の同意により、病院関係者（相談員等）と協働し、早期退院への支援を行っている。	○	退院時には医療情報提供書・看護サマリーを受け、主治医と連携して生活支援を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合における医療体制指針について説明し、承諾を受けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度化や終末期の利用者が日々暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	前例が無いが、できるだけ入居者の負担を見極めた支援に努める。家族とは、連携する門病院の選定を行っている。		

49	○住み替え時の協働によるダメージの防 本人が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わ るケア関係者間で十分な話し合いや情報 交換を行い、住み替えによるダメージを 防ぐことに努めている	移行時には、家族と協働し情報提供を行 っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	人生の先達として、思いを尊重した支援 を基本とし、いわゆる馴染みの関係を築 きながらの支援に努めている。	○	入居時には、入居者、家族等に個人情 報保護方針を説明し、職員に対しても 守秘義務に関する誓約書を交わしてい る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮ら せるように支援をしている	安らぎと生きがいを感じることができ、 自分らしさを保てるよう、希望を表出 し、自己決定するための、話題等の提 供・提案も行いながら支援に努めてい る。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、入居者の選 択と自己決定を尊重し、自分らしい生活 が保てるよう支援を行っている。	○	その日の入居者の状況・職員体制を勘 案し、できる限り外出（喫茶・買物・理 美容等）希望に沿えるよう努めている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援し、理容・美容は本人 の望む店に行けるように努めている	理美容は馴染みの店等、希望に沿った 店に行けるよう、気候条件等を勘案し ながら個別支援に努めている。	○	行事や外出時の装いを、会話を楽しみ ながら提案している。

岐阜県 グループホーム ホープ

54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や入居者の嗜好を取り入れた献立を立てるよう、心掛けている。 配膳準備、片付けのできる入居者には、その一部を職員とともにやっている。	○	希望や提案により、一緒に外食を行っている。 既往症に応じて必要な入居者には、特別食の工夫を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品によっては家族、必要な場合は主治医と相談のうえ楽しんでもらうが、嚥下等に留意を要する場合は、場所など一定の制限のもと楽しんでもらっている。	○	ホールでは、24時間好きなとき自由にお茶を飲んでもらえるよう、設備環境を整えて居る。 その日の希望、提案により喫茶店等へ出掛けられるよう努めている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	状態に応じて看護師等を通じ専門医に相談し、医療と連携しながら、快適な排泄に向けた支援を行っている。	○	排泄と合わせて水分補給にも心掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同性介護を基本とし、気候や入居者のニーズに合わせ、入浴支援を行っている。入居者に応じて、気持ちよく利用してもらえるタイミングや声掛けの方法を工夫をして入浴支援を行っている。	○	身体状況により、入浴できない入居者にはマニュアルを作成し清拭を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も自由に休息したり、睡眠を取れるよう自分らしい生活への支援を行っている。 体調に応じて休息の提案も行い、空調及び照明の調節にも平素より心掛けた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダー・掃除・園芸・洗濯物等の能力を活かした楽しみや、役割を持つよう、自分らしい生活への支援を行っている。	○	日々の体操やレクリエーションの時間には、自発的してもらえよう努めている。 音楽療法・演奏会等のボランティア行事を行っている。

岐阜県 グループホーム ホープ

60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、経済生活の基本として生活感に溶け込んでいる。金銭の使用は、地域で生活する基本と考え、支援を行っている。	○	外出の機会には、入居者にて精算してもらうようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候、体調、気分によっても自由に外出の自己決定ができ、そのニーズに応えられるよう努めている。	○	個別のニーズに柔軟に対応できるように職員の勤務体制にも工夫している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別のニーズには、必要に応じ家族等とも相談のうえ支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別のニーズには、必要に応じ家族等とも相談のうえ支援を行っている。	○	家庭通信や手紙の返信支援を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人等の大切な人は、自分らしい暮らしのための礎となる、入居者にとって最も大事な存在の一つであると留意して、支援に努めている。	○	プライバシーが守られる、居室内にてゆっくり談話してもらえるよう、接待や、予備の腰掛等、環境面の配慮を行っている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に同「具体的な行為」等を掲示、周知徹底している。	○	身体拘束については、重要事項説明書にて入居時に説明し、禁止行為としている。

岐阜県 グループホーム ホープ


66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者には、信頼と安心感をもって暮らせる場所として、居室の鍵はいうまでもなく、玄関の鍵も社会通念上、防犯に必要な時間帯にのみ使用している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日頃より入居者と対話しながら所在把握をしている。夜間は、定時の安否確認や特に空調環境の確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者・家族と相談のうえ、親しんできた暮らしを継続できるよう努めている。	○	ケースに応じて、薬の一部管理・ハサミ等の管理も入居者に任せている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケースに応じて、マットセンサーの導入検討や歩行器・車椅子の利用を積極的に試している。いわゆるヒヤリハット等も共有して事故を予防している。	○	年間行事計画に沿って、介護の基本技術の知識習得の機会をつくっている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署の救命講習を受講し、手当てや心肺蘇生の訓練を行なっている。	○	事故時の対応マニュアルを作成し周知している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の避難訓練を定期的に行い、火災報知機・消火器の使用法・緊急通報の仕方等についても訓練している。 地域よりも立会いを得て災害時にも協力を得られるよう働きかけている。	○	年間行事計画に沿って、避難訓練を行なっている。

72	○リスク対応に関する家族等との話し合 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故予防と抑圧は表裏一体なだけに、家族と一緒に話し合い、最善策を講じるよう工夫し入居者本位の支援に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別医療記録にて入居者情報の共有に努めている。適時、主治医等と連携し早期対応を行なっている。	○	毎日、午前・午後の2回、バイタルチェックを行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書・記録・個人ケアノートにより、医療情報の共有に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より水分の補給に心がけ、毎日の体操には、腹筋に繋がる運動を取り入れている。慢性の便秘に対しては、医師・薬剤師等と相談のうえ支援を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎にも留意し、ケースに応じて、ブラッシング介助等を行っている。	○	就寝中は、義歯洗浄剤を利用している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を取り入れ、家庭的な献立に心がけ、主食・主菜・副菜・汁物を基本に食事提供を行っている。 24時間、自由にお茶が飲める環境を整えている。	○	体調にあわせスポーツ飲料にて水分補給をしている。 病状により、主治医や管理栄養士と連携し食事等の管理を行なっている。

78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	適時、手袋の使用・消毒液の使用に努めている。タオルペーパーを設置し、シーズンには加湿器を使用している。 感染症発生時には、速やかに医師等の指示に従うと共に、マニュアルを確認して感染予防を行なっている。	○	年間行事計画に沿って、感染症予防の知識を共有したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	各種の殺菌洗浄剤・食器洗乾燥機を利用している。 調理前の手洗い消毒を励行している。食事前には入居者にも清潔を保てるよう支援を行なっている。	○	食材は、献立に応じて1～3日前までに購入したものを使用し、季節や食材に応じて冷凍保管するよう努めている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、明るく開放的に作られている。 観葉植物・家族よりの額や花細工を飾り暖かい雰囲気を取り入れるよう努めている。	○	安全に靴の履き替えができるよう、手すりを設置。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、行事予定等の掲示・季節の花等、生活感や季節感を取り入れるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所 居場所 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いた空間を設けている。 テーブルの指定席は、気の合うもの同士、くつろげるよう、入居者の希望を取り入れながらバランスよく工夫に努めている。		

岐阜県 グループホーム ホープ

83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、親しんだ物を持参して使ってもらおうよう家族・入居者に勧めている。必要に応じて、引越しの支援を行なっている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>夜間の安眠環境の管理はもとより、日頃より、外気に応じた温度調節や換気に努めている。</p>	○	<p>レクリエーションにて、居室用のラベンダー飾り作りを行なった。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、バリアフリー構造にて、車イス・歩行器等を利用し自立した生活ができるよ環境面の配慮を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>趣味やレクリエーション・役割・行事・外出の機会を提供し、地域で暮らしながら、入居者に応じた自立支援に努めている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地には簡易畑や花壇を設け、楽しんでいる。</p>	○	<p>建物前には、広い公園があり、入居者の散歩コースになっている。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県. グループホーム ホープ

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設理念を念頭に、サービス提供に努めている。